

自己点検表

1. 教員個別表

フリガナ ミヤ ザキ マサミ 氏 名 宮 崎 正 美	職 名 教授 人間学部 子ども教育学科	取 得 学 位 Sacrae Theologiae Licentiatius ・神学修士 (大学名) FACULTAS ECCLESIASTICA THEOLOGIAE TOKYOENSIS(UNIVERSITAS CATHOLICA SOPHIA)・上智大学 (取得年月) 1992 年 2 月・1992 年 3 月
-------------------------------	------------------------	--

2. 教育・研究業績表

(1) 過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月(西暦)	概 要
1. 講義「人間論」 (旧カリキュラム「人間論Ⅰ」「人間論Ⅱ」)	2019.4～現在 (2011.4～ 2019.3)	<p>学部共通科目必修科目。全学科3年次開講科目。</p> <p>下記「人間論Ⅰ」「人間論Ⅱ」の授業内容を、1/2 の時間数で実施するという難題を負い、従来と同様の方法を用いながら、受講生の授業内容の理解しやすさを考慮して実施している。</p> <p>科目内容は(キリスト教的)人間学として、人間に関する総合的理解(したがって多分野にわたる諸科学の協働)の必要性を理解する。また、「人間とは何か」という問いを通して、現実の中の神秘に目を向けつつ真理を探究することを学ぶ。最初に、大学における自由七科の意義に目を向けさせる。さらに、人間のいのちについて、「子どものいのち」という切り口から、①現代・日本、②古代・聖書の文化、③近代・日本の文化と条件を変えて学生に考えさせる。死に向かって生きている人間の現実を考察させた。②については、聖書のことばを、聖書学の方法論を簡便に用いることによって解説し、歴史的文化的背景を理解しながらそのコンテキストを学ばせる。③については、室生犀星の作品「童子」「後の日の童子」を映像化した是枝裕和監督『後の日』を観てもらい、考えさせた。</p> <p>また、犯罪被害という特殊に思われる問題を取り上げることによって、望ましくない人間関係に置かれてしまう状況の理解、「償い」「ゆるし」の問題の理解を進めた。考えるきっかけとして、公共放送をはじめ一般の番組で放映された番組のビデオ録画を活用した。その他 VHS、DVD の映像資料や、PowerPoint を活用した。</p> <p>資料の提供や質問等の情報ツールには Google Classroom を利用し、また適当な番組があれば NHK+を補助的な資料(ただし放映から1週間以内)として紹介・提示(リンク)する。</p> <p>人間一般のおかれた環境のなかでキリスト教の世界観・価値観がもつ意味を説明するように工夫している。人間の死と生、家族をめぐる複合的な問題を意識させ、「人間が生きている」ことの意味を、自分自身で問い</p>

2. 講義「キリスト教学Ⅱ」	2024.4～現在	<p>続けることができるように授業計画をたて、実施した。</p> <p>学部共通科目選択科目。子ども教育学科を除く全学科2年次開講科目。</p> <p>キリスト教について「外から」みて得る知識に対して、「中から」みた場合（キリスト者の視点からみた場合）の知識を問題にする。具体的には、①聖書のことばについてどう受け止め理解し生きてくことができるか、②聖歌や賛美歌を歌うことの意味は何か、③ミサに与（あずか）るということの意味は何か、等。</p> <p>資料の提供や質問等の情報ツールには Google Classroom を利用し、また適当な番組があれば NHK+を補助的な資料（ただし放映から1週間以内）として紹介・提示（リンク）する。</p>
3. 講義「キリスト教学ⅠA」	2023.4～2025.3	<p>学部共通科目選択科目。子ども教育学科1年次開講科目。</p> <p>キリスト教について「外から」みて得る知識の基本として、一般常識的なレベルを学ばせる。</p> <p>また修養会と連動しミサや祈ることの基本的意味（意義）についても理解させる。</p> <p>資料の提供や質問等の情報ツールには Google Classroom を利用し、また適当な番組があれば NHK+を補助的な資料（ただし放映から1週間以内）として紹介・提示（リンク）する。</p>
4. 講義「キリスト教学ⅠB」	2023.4～2025.3	<p>学部共通科目選択科目。子ども教育学科1年次開講科目。</p> <p>キリスト教について「外から」みて得る知識の基本として、一般常識的なレベルを学ばせる。</p> <p>また修養会と連動しミサや祈ることの基本的意味（意義）についても理解させる。</p> <p>資料の提供や質問等の情報ツールには Google Classroom を利用し、また適当な番組があれば NHK+を補助的な資料（ただし放映から1週間以内）として紹介・提示（リンク）する。</p>
5. 講義「宗教と美術」	2006.4～現在	<p>学部共通科目選択科目。全学科3年次開講科目。</p> <p>キリスト教を中心とした宗教と、美術との関わりについて、美術作品の鑑賞に終始することなく、むしろ自分に所与として与えられた感性・想像力などをくしつ「自分で考える」ようにした。そのために、PowerPoint を毎回、活用した。また NHK の優れた番組の中から、考えるための資料を提供した。また同時にイコノロジー（図像学）の初歩的な内容を入れて、東方キリスト教のアイコンについて学ぶことを通して、キリスト教における図像の役割の大きさを理解させた。さらに、図像をとおしての资格的認識が、人</p>

6. 講義「キリスト教と教育」	2023.4～現在.	<p>間において成立するということについて、人間の認識の構造を、生理学的・解釈学的・哲学的に学ばせた。</p> <p>公共放送をはじめ一般の番組で放映された番組のビデオ録画を活用した。</p> <p>資料の提供や質問等の情報ツールには Google Classroom を利用し、また適当な番組があれば NHK+を補助的な資料(ただし放映から1週間以内)として紹介・提示(リンク)する。</p> <p>第二バチカン公会議「キリスト教教育に関する宣言」をおもに用い、キリスト教的視点でみた教育の考え方から、「教育とは何か」について深く掘り下げる。</p> <p>資料の提供や質問等の情報ツールには Google Classroom を利用し、また適当な番組があれば NHK+を補助的な資料(ただし放映から1週間以内)として紹介・提示(リンク)する。</p>
7. 「子ども発達総合演習Ⅰ」 「子ども発達総合演習Ⅱ」	2023.4～2024.3	<p>「子ども発達総合演習Ⅰ」「子ども発達総合演習Ⅱ」については、2023 年度はゼミ生の研究テーマに合わせて宮口幸治『ケーキの切れない非行少年たち』(新潮社 2019 年)を講読し、発達障害グレーゾーンの子どもたちと現代日本社会の問題について考察している。</p> <p>「子ども発達総合演習Ⅱ」については、2023 年度はゼミ生の研究テーマに合わせて宮口幸治『ケーキの切れない非行少年たち』(新潮社 2019 年)を講読し、発達障害グレーゾーンの子どもたちと現代日本社会の問題について考察している。</p>
8. 「子ども発達総合演習Ⅲ」 「子ども発達総合演習Ⅳ」	2021.4～2023.3	<p>2021 年度は、「キリスト教と障がい」をテーマに基本的な文献調査をした。</p> <p>2022 年度は、「キリスト教と障害」について、論文作成の指導、および他の1名は、「クラシック・バレエにおける宗教の考察——歴史をふまえて」というテーマで、文献研究に続き論文指導をしている。</p> <p>2024 年度は、日本社会の発達障害児への支援制度からこぼれ落ちる事例について調査・考察を進めた。</p>
9. 自主ゼミ（学生の自主的研究支援）聖書研究会、ラテン語, ロシア語	2022.4～現在.	2022-2023 年度はロシア語に関心ある学生と文法習得をめざした。2022 年度は聖書研究会をもった。[週1コマ]。2022 年アドヴェント期間に、自主ゼミの学生および関心ある学生たちによって、ウクライナ支援 (UNICEF) の募金を集めた。
【それ以外のもの】		
10. キリスト教学テキスト『キリスト教学概論—過越の生を生きる』(現代神学研究会) 第4版	2006	カトリックの立場によるキリスト教学の教科書。
11. 東北大学ラテン語 I・II テキスト『ラテン語文法の基礎ノート』(私家版) 第2	2007	ラテン語文法の解説書。東北大学文学部および全学教育開講科目の教

版		科書。
---	--	-----

(2) 過去5年間の研究業績

I 研究活動						
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共著者名 (共著の場合)	編者名と当該執筆 者数(編著の場合)	該当頁数
[著書] [論文] 1. カトリック教会の典礼様式をめぐる人間学的考察	単著	2024.3	『仙台白百合女子大学人間学 研究センター紀要』第 1 号 (2024)			42-71 頁
2. 個に内在するキリストの検討——キリスト教的人間 学の基礎についての試論	単著	2025.3	『仙台白百合女子大学人間学 研究センター紀要』第 2 号 (2025)			20-32 頁
[その他] 1. ウクライナ避難民の復活祭 ヴェリークデニのパス ハ(復活祭)の早課「石巻でのウクライナの復活祭」	単著	2023.3	『みやぎ宗連報』(宮城県宗 教法人連絡協議会)49 号			27-28 頁
2. インタビュー「今こそ平和を」～ウクライナでの戦争 をめぐって	共著	2024.3	『みやぎ宗連報』(宮城県宗 教法人連絡協議会)50 号(20			25-30 頁
【それ以外のもの】 1. 岩波キリスト教辞典	共著	2002.6	岩波書店		大貫隆、宮本久雄、 名取四郎、百瀬文晃	2,2,17,49,51- 52,57,60- 61,126,145- 6,223,245,250, 266,317,317, 330,404,506,

2. 新カトリック大事典 第2-4巻	共著	1998-2009	研究社		委員長: 高柳俊一	527,541,556, 558-9,576, 654,707,710-1, 802,804,867, 884,910,929, 962,1032,1069, 1076,1102,1129 1222,1222,1231
--------------------	----	-----------	-----	--	-----------	--

翻訳

翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表 の年月(西暦)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	共訳者名 (共訳の場合)	監修者名と当該訳者 数(監修訳書の場合)	該当頁数
1. 『宣教のパラダイム転換(下)』	共訳	2001.3	新教出版社	有村浩一、 矢口洋生、他	監修: 鍋谷堯爾 14 名	12 章 12-13 項 「神学としての 宣教」「希望に満ちた行 動としての宣 教」396-426 頁

学術研究発表

発表テーマ	発表年月 (西暦)	発表場所
1. 「アイコンの系譜——「父なる神」は書かれうるか」	2021.8	東方キリスト教学会第 21 回例会 (Zoom 開催)
2. 「典礼様式 ritus とウクライナ避難民の支援——カトリックの司牧典礼の可能性と限界についての考察」	2023.3	日本基督教学会東北支部第 57 回大会 (Zoom 開催)

3.「人間学とは何か——歴史・課題」	2023.6	人間学研究センター「人間学研究プロジェクト」オープンセミナー第1回
4.「人間学とは何か——方法論と課題」	2023.7	人間学研究センター「人間学研究プロジェクト」オープンセミナー第2回
5.「人間学研究と人間学教育」	2023.12	人間学研究センター「人間学研究プロジェクト」オープンセミナー第3回
6. 連続講演① 現代の人間の「いのち」をめぐって(3/9)	2024.3	人間学研究センター「人間学研究プロジェクト」連続講演
7. 連続講演② キリストの復活を検討する(3/16)		〈復活〉体験をとおして学ぶキリスト教の基本——神は、わたしのいのち
8. 連続講演③ キリストの復活とわたしたち(3/23)		において生きておられる
8. 連続講演④ 新ためてこの世界に生きる(3/30)		
9.「人類はどう生きるか— 〈復活〉によって拓かれるキリスト教的人間観」	2025.3	カトリック研究所 2024 年度第3回研究会
10.「内在するキリスト」について——教理の意味の共有はいかにして可能か	2025.6	日本カトリック大学キリスト教文化研究所協議会 2025 年度第 37 回研究報告

Ⅱ 所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
1. 日本カトリック神学会	学会幹事(2003.6～8 期目) 学会賞審査委員(2020.4～2022)	1991
2. 日本基督教学会		1995
3. 東方キリスト教学会		2001
4. 日本宣教学会		2005

Ⅲ 研究費の助成を受けた研究(過去 5 年間)				
助成機関名	助成を受けた年度 (西暦)	助成プログラム	研究テーマ	助成金額 (円)
仙台白百合女子大学人間学研究センター	2023	仙台白百合女子大学人間学研究センター研究助成	人間学研究プロジェクト(人間学の基本研究)	305,000

3. 特記事項

(非常勤講師)	
1. 東北大学(文学部)	「キリスト教史」担当(2018.10～現在)
2. 東北大学(全学教育)	「ラテン語Ⅰ」担当(1996.4～現在)
3. 東北大学(全学教育)	「ラテン語Ⅱ」担当(1996.4～現在)

4. 東北大学（文学部） 「ラテン語（初級）」前期担当（2011. 4～現在）
5. 東北大学（文学部） 「ラテン語（初級）」後期担当（2004. 4～2006. 3 および 2010. 4～現在）
6. 東北大学（文学部） 「ラテン語（中級）」前期担当（2024. 4～現在）

（講演会・研修会等）

1. 講演「現代のニーズに応じて建学の精神を生かす教育——仙台白百合女子大学の 新カリキュラム改革を中心に」於・仙台白百合学園（2016.3.28）
2. 出張講座「死と生の人間学——キリスト教的視点に基づいて」於・盛岡白百合学園高等学校、（2016.10.17）
3. 出張講座「聖書の目的別学び方」於・郡山ザベリオ学園中学校（2023.9.20）

（社会的活動）

1. 東北臨床宗教師会 副会長（2018. 10～2021. 9）
2. ロシアのウクライナ侵攻から2年の祈り—— 虐げられ亡くなった人々とウクライナの復活のために ——（2024. 2. 24）於・本学
3. ウクライナ避難民のための復活祭（ウクライナ語・日本語による祈り）（2022. 4, 2023. 4, 2024. 5, 2025. 4 計 4 回）於・石巻栄光教会
4. カトリック研究所主催「ロシアのウクライナ侵攻3年の祈り ——ウクライナ、ガザ、戦禍で虐げられ亡くなった人々のために ——（2025. 2. 24）於・カトリック元寺小路教会（カトリック仙台司教区カテドラル） 司式：イグナシオ・マルチネス神父 先唱：宮崎 正美
https://sendai-shirayuri.ac.jp/event/event20250204_01/

（大学の管理運営上の実績）

1. 仙台白百合女子大学 人間発達研究センター長（2018. 4～2024. 3）
2. 仙台白百合女子大学 カトリック研究所長（2024. 4～現在）